令和４年度第２回熊野市総合教育会議会議録

１．日　　時　　令和５年２月 10 日（金）　午後１時 30 分から

２．場　　所　　文化交流センター　交流ホール

３．出 席 者　　熊野市長　河上敢二
熊野市教育委員会
倉本教育長　根引委員、高見委員

４．事務局関係
教育委員会事務局
雑賀総務課長、伴学校教育課長、柳本社会教育課長
森倉学校教育課長補佐、浦坪学校教育課指導主事
中尾総務課長補佐、泉総務課庶務係長
市長公室
濵中市長公室長
総務課
吉井総務課長

５．事　　項
（１）熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか
（２）生涯を通じた学びの充実のために
（３）その他

雑賀総務課長　　それでは定刻になりましたので、ただいまから令和４年度第２回熊野市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会進行を務めさせていただきます熊野市教育委員会事務局総務課長の雑賀でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会議を進める前に配布の資料の確認をさせて頂きます。Ａ４　１枚の本日の事項書、それから横長の「令和４年度第２回熊野市総合教育会議」と記載された資料でございますがよろしいでしょうか。

１点お願いがございます。お手元のマイクのスイッチは入れたままのお願いします。

それでは開会にあたりまして、市長からご挨拶をお願いします。

河上市長　　お忙しい中、令和４年度第２回目の総合教育会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃より当市の教育行政の推進について、格別のご尽力をい

ただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

11月の第１回の会議におきましては、「熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか」、２つ目は「生涯を通じた学びの充実のために」ということで、取り組み内容と方向性について報告をし、議論をいただいたところでございます。

本日の第２回目におきましても、第１回目に引き続きまして、１つ目には「熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか」を議題にいたしまして、本市の課題であります国語の学力向上についての具体的な取組状況を報告させていただくとともに、児童・生徒で支援が必要な子ども達や不登校の実態と、それらを踏まえた支援や取組等について説明をさせていただく予定です。

また、２つ目には「生涯を通じた学びの充実のために」を議題に、第１回以降の状況や次年度以降の生涯学習事業の進め方などについて説明をさせていただきます。

今後も、ウィズコロナ社会における学校教育分野及び生涯学習分野の振興と充実のため、幅広い取組を行ってまいりたいと考えておりますので、委員の皆様には忌憚の無いご意見をいただくとともに、今後なお一層のご理解ご協力を賜りますようお願いを申し上げまして挨拶とさせていただきます。

今日はよろしくお願いいたします。

雑賀総務課長　ありがとうございました。

それでは、事項書２番の事項に入らせていただきます。先程、市長からもお話がありましたようにこれまでに引き続きまして２つの事項を予定しております。

１項目目の「熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか」でございます。学校教育課より説明をさせていただきます。

伴学校教育課長　学校教育課課長の伴でございます。「熊野市の子どもたちに今育むべき力をどうつけていくか」について提案いたします。

別添資料１をご覧ください。

新型コロナ感染症がこの地域においてもなかなか収束しない状況があります。

そのような中、子どもたちに今育むべき力については、前回のこの総合教育会議で、具体的に取り組んでいく方向で報告させていただいたところです。

本日は、前回提起させていただいた取組の報告として、①学力向上に向けた具体的取組状況を。そして、②児童・生徒の実態を踏まえた支援についての２点について説明させていただきます。

特に、②については、委員の皆様の忌憚のない意見をお伺いし、今

後の学校教育課の取組に生かしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

まず、前回提示させていただいた、本市の子どもたちの課題を、全国学力学習状況調査の結果から、お話しさせていただきます。

ご覧のとおり、小中ともにすべての教科が、全国平均を下回っておりますが、特に、国語の「書くこと」「読むこと」については、小中ともに課題が大きくみられる状況です。それらを踏まえ、前回、学力向上に向けた取組として、小学校国語の全体的な底上げ、それから学習指導要領で求められている力を確実につけていく。

そのことに伴った具体的な取組を前回提起させていただき、皆様からご意見を頂戴いたしました。

その中で、学習内容の定着、特に漢字読み書きの定着、取組を徹底する。ことについての具体的な取組を報告します。

今、スライドで示させてもらっておりますが、３種類のプリントがあります。これは、学校教育課で作成した「漢字チャレンジ定着状況確認プリント」です。

このプリントは、これまでの全国学調や、みえスタディチェックで、正答率が低い漢字を、その漢字を習う学年毎に、まとめたものです。

学校教育課の森倉指導主事が作成しております。

このプリントを、市内全小学校の５年生に、１月 12 日から２月 10 日の期間で取り組みを指示しております。

プリントに取り組んだあと、採点結果をデータ化し、その定着度から、たとえば４年生の漢字が弱い傾向であれば、４年生に学習した漢字の復習をおこなうなど、重点的な学習を実施し、徹底した取組で着実な定着を図るよう、指示しているところです。

なお、授業改善については、５年生の国語教材「あなたはどう考える」を指定し、実践内容やその時の子どものノートの写しなどを、２月 16 日木曜日に開催する第４回学力向上推進研修会で共有する予定です。

このような具体的な取組で、「書くこと」への課題の克服につなげているところであります。

令和５年４月 18 日火曜日に全国学力学習状況調査が実施されます。その結果で、これらの取組の効果について、検証をしていきたいと考えています。

なお、次のスライドを見ていただきたいんですが、来年度令和５年度の学力向上推進研修会では、京都女子大学教授の水戸部修治先生にお越しいただき、国語の授業改善についての講演をしていただく

予定です。
　この方は、今の小学校の国語の学習指導要領を作成する際に、文科省の教科調査官をされていた方で、国語の授業づくりでは、日本で第一人者といっても過言ではない方です。
　非常に貴重な機会になるかと考えておりまして、私自身も今から楽しみにしております。こういった方に来ていただいて、より一層授業改善も進めていきたいと思っております。
　続きまして、②児童・生徒の実態を踏まえた支援について、報告をいたします。
　まず１点目の「全国体力・運動能力調査結果」です。
　先日、地方紙等に公表させていただきましたので、見ていただいた方も多いかと思います。
　熊野市の子どもたちは、体力の面では、すべての学年で全国平均を上回りました。
　しかしながら、全国的には、年々、子どもたちの体力・運動能力が低下していることが問題視されております。
　そこで、過去５年分の全国体力・運動能力調査結果を、グラフにしてみました。青線が熊野市の平均、赤線が全国の平均となります。
　なお、データなんですが、令和２年度はコロナ感染症の関係で調査が中止され、データが抜けております。
　まずこれは、小学校５年生男子です。見ていただくとわかるように、全国平均は緩やかな下降傾向が見られ、特にコロナ禍を経て令和３年度からこれまでよりも大きく下がっているのがわかっております。
　次に小学校５年生女子です。熊野市も全国と同様、下降傾向となっています。
　中学校２年生男子です。全国の傾向は小学生とほぼ変わらない状況ですが、熊野市だけを見ると、今年度落ち込んでいるのが見て取れます。
　最後に、中学２年生女子です。ここも全国傾向は変わりませんが、熊野市はほぼ横ばいといえます。
　このように、熊野市の子どもたちは、体力・運動能力の調査結果については、今見ていただいたとおり、ここ数年全国平均は上回っております。
　各学校での体育の授業での取組や、外遊びの推奨、さらに中学校での部活動など、さまざまな取組の成果もあると思いますが、特にこの熊野市においては、市をあげてスポーツについて力を入れている部分で、環境的にも子ども達の関心が高いのが、こういった結果に繋が

っているのではないかとも考えております。ただ、徐々に下降傾向にあることは、当市としても課題ではないかと考えます。

次に、個別の支援が必要な子どもたちについてです。このデータにつきましては、傍聴席の皆様の資料には数字を入れておりません。数字が独り歩きすることを少し懸念させていただきましたので、申し訳無いのですがご了解ください。特別支援学級に在籍している児童・生徒数です。平成28年度からのデータです。

全国的に在籍している割合が増えておりますが、熊野市は、それを上回った比率で増えているのがわかります。

個別の支援が必要な子ども達の特徴としては、障害の種別として、いくつかに分けられており、その内容について説明します。

まず、情緒障害です。これは、状況に合わない感情・気分により、不適切な行動が引き起こされ、それらを自分の意思ではコントロールできず、生活に適応できなくなる状態をいいます。

次に自閉症です。ここにあるとおり、３つのことに特徴のある発達障害です。中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されています。

次に、学習障害です。これは、学習に必要な基礎的な能力のうち、１つないし複数の特定の能力についてなかなか習得できなかったり、うまく発揮することができなかったりすることによって、学習上、様々な困難に直面している状態をいいます。学習障害は、LD(Learning Disability)とも呼ばれています。

次に、注意欠陥多動性障害です。これは、身の回りの特定のものに意識を集中させる脳の働きである注意力に問題があったり、衝動的で落ち着きのない行動などにより、生活上、様々な困難に直面している状態をいいます。この注意欠陥多動性障害は、ADHD (Attention-deficit/hyperactivity disorder)とも呼ばれています。

最後に、いわゆる発達障害ではない後天的な要因で、「愛着障がい」といったものなども、最近増えてきていると言われております。

ただ、誤解を招かないようにしていただきたいと思うことは、支援が必要な子どもたちがいること自体は、決して課題ではないということです。

多様な子どもたちいる中で、皆が思いやりを持ちながら、誰もが楽しく学校生活を送ることができるようにしていくことが、これからの社会の在り方にもつながることだと確信しています。

最後に、子どもたちの将来に向けての実態を紹介します。これは、令和元年三重県の統計調査による「三重県内市町別一人当たり所得」のグラフで公表されているものです。

熊野市は、29 ある市町の中で、この位置にあります。県内の平均所得からも大きく下回っている状況があります。

次に平成 28 年度の内閣府の資料なんですけど、平成 25 年度の全国学力学習状況調査では、世帯所得なども抽出で調査するなど、きめ細かい調査が行われました。

この調査と学力との相関のなかで、世帯所得と学力は、比例関係にある。世帯所得が低いほど国語と算数の正答率が低いというような結果が報告されております。

この報告から言えば、当市の子ども達は決して有利な状況にあるとは言えません。

こういった状況を踏まえ、熊野市では、学校での給食費の無償化をはじめ、県内でトップレベルのさまざまな子育て支援策を実施しているところです。

また、高校生、大学生、専門学校生への奨学金制度も県内でもトップクラスのものとなっており、子ども達の将来に向けた経済的支援を、実施しております。

この地域の経済的な状況が、子どもたちの将来に向けて不利な状況にはならないようにしていきたいと考えております。

その他、不登校の児童・生徒の増加、子どもの数の減少、また教員不足など、実態として見えてきております。

これらの実態を踏まえ、様々な角度から忌憚のない意見を頂戴し、学校教育課の今後の取組に生かしてまいりたいと考えます。

よろしくお願いいたします。以上です。

雑賀総務課長　ただいま説明させていただきました内容、また内容に関連しましてご意見、ご質問を委員の皆さんいかがでしょうか。
是非忌憚の無い意見をお願いします。

河上市長　５ページのところの資料の見方は、どのように見ればいいのか。

伴学校教育課長　これは、これから学校で作成する表の様式となっています。
漢字が一番左に並んでいると思うんですけど、その１個１個の漢字毎に正答か不正解かというのを、一番上の横の列が出席番号になっています。児童１人１人のデータになります。１人１人どのような形で正答しているかというのをこのグラフで把握をして、そのなかで正答と不正解の部分を分けて考えて、次の取組に活かしていきたいというふうに考えております。

雑賀総務課長　よろしいでしょいうか。

河上市長　これに議論が集中すると悪いので、また後にします。

根引委員　愛着障害というものがあったと思うんですけど、９ページだったと思うんですけど、これについてもう少し詳しく説明いただけます

か。

伴学校教育課長　愛着障害ですが、いわゆる特別支援学級で障害と呼ばれている通常の場合は、先天的な形での障害というふうに言われております。この愛着障害は、特に保護者との愛着が、愛着というのは大体、２歳までに形成されるといわれているんですが、それが乳幼児期の虐待や、ネグレクト、育児放棄なんかによって保護者としての愛着が断たれたことで引き起こされる障害というふうに言われております。

伴学校教育課長　これはいわゆる心理学的な用語でもあります。乳幼児期に甘えるとか、誰かを信頼するという経験値が極端に低いために、自分に向けられる愛情や好意に対しての応答が、怒りや無関心となってしまうことが多いというふうに言われております。

学校で、こういった愛着障害の疑いがあるようなお子さんが増えているような実態もあります。その中では、今スマホが浸透しているんですが、保護者が子育ての際、今までであれば例えば、乳幼児であればミルクを与える時であれば、必ずその子どもの顔を見ながら愛情を注ぎながらあげていたものが、片手にスマホを持って、そのスマホを見ながらミルクを与えてしまったり、という形で知らない間に子どもへの愛情・愛着を形成する場面を、削いでしまっている。

自分達としては、「私は愛着障害になるようなことはしていません」と言ってても、実はそういったことで愛着障害に繋がっているような子もいるんじゃないかとも言われています。

これはスマホネグレクトという言葉で言われているんですけど、そういったことも出てきており、学校では非常に子ども達、特に低学年でこういうことが原因で、落ち着きの無い子も増えているように感じているところではあります。

雑賀総務課長　根引委員よろしいでしょうか。

根引委員　ありがとうございます。

河上市長　傍聴の方々には数字が打っていないとのことなんですけど、さっき 13 ページで特別支援学級の在籍児童、特別支援学級に在籍してもらうかどうかの判断は、どこでされるんですか。

伴学校教育課長　熊野市では、就学指導委員会という形で精神科の医師の方、児童相談所、それから市の福祉事務所、学校教育課、それから学校の代表等が集まって、就学指導委員会というものに資料を提出いただいて、そこで特別支援学級への在籍が必要かというのを判断させてもらっております。

河上市長　客観的な評価ではなくて、そういった関係者が集まって、この子は普通教室は少し難しいかもしれないという判断をされているんですね。全国と熊野市の開きがあまりにも大きいんで、関係者が集まって

評価するということが、私は否定的な思いは無いんですが、あまりにも開きが大きいんで、医療的にこの地域に問題があるんじゃないかとも思える数字なんで、これは一回、健康長寿課と県の医療関係部局も含めて、本当の意味での専門家で三重大学あたりから来ていただいて、成田先生あたりに来ていただいてですね、実情を把握するような、もう少し根本的な部分の話を、これは教育委員会ではないのかもしれませんけど、健康長寿課と連携して調査をするべきじゃないのかなという気がします。

倉本教育長　先程、福祉部局、専門医、学校職員、教育委員会等が集まってやるわけなんですが、就学指導委員会のなかで、検査データなんかも使いますので、話し合いによって決まるんですが、元となるデータはできるだけ収集したうえでですね、そのデータを使うことを保護者の理解や同意を得て、共有してやっているわけなんですが、市長おっしゃるように、もう少し客観性を持たせたものにすることは、検討の余地があるのかなと思います。

河上市長　申し訳無いんですが、総合教育会議で話す内容では無いのかもしれませんが、２倍以上に数字に開きがあるので、発生率というか割合が。熊野市だけなのか、紀南地域なのか、あるいは東紀州なのか、何か別の要因があるのか、もしあるんであればそこを同時に解消していかないと。特別支援教育を受ける子ども達が、これ以上増えないように考えていかないと、対応策だけだとこれから大変な状況になりかねないなという危惧を持ったものですから。

倉本教育長　この点と違うところでお話をさせていただきます。19 ページをご覧ください。先程、課長の方から平成 28 年度の内閣府資料より、学力について世帯の所得と、子どもの学力には明確な、以下のような数々の調査、研究から示されているわけでありますが、誤解をしていただくと困るところが、統計上有意な関連が認められるということですので、このことだけを理由としてはいけないし、熊野市教育委員会もこれを理由とはしておりません。ですから、そういった中での学力を上げる、そういった環境の中でも学力の高い子はおりますので、これは誤解をしないでいただきたいという思いがあります。

雑賀総務課長　続いて、高見委員いかがでしょう。

高見委員　はい。先程のお話の中で愛着障害の疑いがあるというようなお話をされておりましたが、そういっや疑いのある子どもに対して、専門機関の受診といいますか、そういったことは特にされていないんでしょうか。

伴学校教育課長　いわゆる障害と言われている部分では、先程言わせていただいた４つの種別が主な障害というふうになっております。育てにくさで

あったり、そういった部分を含めて福祉事務所とも連携しながら、そういったご家庭には医療機関へ掛かっていただくような働きかけをしてもらっております。
先ほど市長からもありました紀南病院の成田先生、紀北町にあります加藤小児科さん、それから尾鷲での巡回の発達外来、そういったところも活用しながら診ていただいているところですが、愛着障害に関しては、医療的な評価が出にくい状況があります。脳の障害であったりとか、中枢神経の障害とは違いますので、そこは非常に見抜きにくいものでもあります。特にＡＤＨＤと見分けがつきにくいというような状況も報告されています。

高見委員　この挙げられている４つの相談に対して、働きかけをしていただいているというお話なんですけど、その働きかけに対しての家庭への影響はどのようなものでしょうか。すぐ相談に入るご家庭もあれば、うちはちょっとというご家庭もあると思うんですが、そのへんはどうでしょうか。

伴学校教育課長　委員ご指摘のとおり、家庭により様々な反応があります。そのあたりを子ども発達支援室でもご助力いただいて、やらせてもらっているところでありますが、以前と比べると、医学的にも進歩しております。そういったことをきちんとお伝えできるようになってきておりまして、ここ数年、そういう意味では理解が進んでいるという実感はありますが、まだまだ全ての家庭がそうかというと、そうではない状況であります。

河上市長　総合教育会議の話では無くなってくるかもしれませんが、高見委員に今のお話を付け加えさせてもらうと、この地域での発達障害の発症は、早期発見をして対応を取ると、進行を抑えられるとか軽くできるような可能性もあるというのは聞いています。ですから、この地域全体で何歳と何歳でやっているか今は思い出せないんですけど、２回くらいそういう検診というか、そういう取組はやっています。その際に若干、成田先生の話でもこの地域では、発達障害の発症が少し高いというお話を聞いたことがあります。そういう事例が報告されております。ただ、原因が分からないのが困るんですが。

倉本教育長　１歳半健診とか、３歳児健診の折にそういった特徴が見られるお子さんは、連動してこちらにも情報が入るようになっておりますので、そういったことは就学指導委員会でも、そのデータを基に話し合うことになっています。

高見委員　色んな所にサポートいただいて、子ども達が過ごしやすい環境を作っていって欲しいなと思っていますので、これからもよろしくお願いします。

河上市長　　先程の５ページの資料の件で、先生が子ども達の漢字能力をチェックする表としては、これは非常に解りやすいんですけど、一人一人の子ども達の能力アップを自らが、自分は今このレベル、レベル１、レベル２、レベル３、レベル４というのを自ら解る仕組みというのも必要じゃないんでしょうか。せっかく今、ＩＴ機器がいっぱい出てきてるんで、これは先生用で、子ども達が自分で自分のレベルを知れるというのもいいんじゃないかなと思いましたけど。

伴学校教育課長　　ありがとうございます。今後は個票とかそういったもので、活かしていけるように検討していきます。

根引委員　　経済的に安心して進路を選択できるという状況に無い子ども達もいます。そういう子ども達に熊野市では、20 ページにありますように奨学金とかをしていただいております。それから、かつては育英会だったんですけど、そういったものを利用して行っている生徒もおります。そういうことを子ども達に、学校の方でしっかり説明することが大事だと思います。やはり夢を持てない子ども達もおりますので、更にもう少し充実した取り組みをしていただけたらなと思います。外国では教育の無償化を大学までやっているところもあり、日本ではまだですけど、経済的な不安を取り除く工夫をやっていただきたいです。

河上市長　　新年度の予算の内容を具体的に申し上げるのは、好ましくないかもしれませんが、細かく具体的には申し上げにくいんですが、給付型については大きな変更はありません。ただ、貸与の奨学金については、拡充する案を作っております。これに付随して言うと、仮に奨学金をたくさん借りて、後が大変じゃないかという時に、熊野市へ帰ってきたら、それが免除になるような仕組みもその中に入れて、借りやすく、しかも帰って来てもらえるような気持ちを高めるような仕掛けを作って、奨学金拡充をしておりますので。

根引委員　　ありがとうございます。

倉本教育長　　根引委員の方から、色んな情報を子ども達に与えて欲しいというご要望があったと思うんですが、奨学金並びに、例えばですね高校への通学費補助等については、確実に保護者のところまで渡るように取り組んでおります。

河上市長　　市長として思いを言わせていただくと、さっき教育長が言われたように、因果関係とは言えないんですけど、一般論として所得の高い世帯、家庭の子どもの方が大学進学率も高くて、しかもその大学もより難しい大学に入っているという結果も出てますので、先程紹介してくれた所得の情報、以前は熊野市は下から２番目だったんですけど、１人あたりの所得ですね、そういう状況を踏まえて、やはり子育

てには、子どもの出生数が減ってきているということだけではなくて、将来を担う子ども達のために、より多くの子どもが高度な教育を受けられるような支援をしていく必要があるだろうと、そういう思いで取り組んで来ていますが、まだまだ足りなくて、さっき根引委員がおっしゃった大学まで無償化というのは、子ども庁がどこまでそういったことまで念頭に置いて子育て支援策を作っていくのか、これは全国市長会なんかでもぽつぽつとですが議論が出始めてますので、国に大学まで無償化にすべきだという強い意見にまでは、まだなっていなかったと思いますが、将来的にはそういうことも議論の中では出てくるんじゃないかと。

ただ、少なくとも熊野市だけで大学までの支援というのは、この奨学金くらいしかできないので、こちらは国の方でしっかり取り組んでもらう必要があるのかなと思いますけど。

根引委員　ありがとうございます。

雑賀総務課長　この項で他に何かございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。無いようですので、２番目の項に移らせていただきます。２番目のテーマ「生涯を通じた学びの充実のために」でございます。説明をお願いします。

柳本社会教育課長　「生涯を通じた学びの充実のために」というテーマでご説明させていただきます。

コロナ感染は未だ終息を迎えておりませんが、ウィズコロナということから講座は中止することなく、市民の皆さんに学習機会の場を提供できるよう、感染予防対策を講じながら開催してきた次第でございます。

今回は第２回総合教育会議において３つの提案、ご説明があります。

まず１つは、前回の第１回総合教育会議で、読み聞かせや読書が人生において欠かせないものという考えを基に、４つの取組を提案いたしましたが、今回は、これらの取組についての実施内容や今後の取り組み等についてご説明させていただきます。

次に、令和４年度の生涯学習講座の経過、今後の主な取組について。そして、３つ目に図書館と学校の連携について現在の取組、そして今後、力を入れていきたい取組についてご説明いたします。

それでは、23 ページをご覧ください。

まず、はじめに、「新たな利用者を増やす」という目的で、２つの取組を行いました。１つは、文化交流センターで開催されるイベントに来ても図書館はあまり利用していないという人をターゲットに、イベントの内容に関連する図書を展示いたしました。

もう１つは、学校の教科書に紹介された図書を展示いたしました。

具体的には、文化交流センターで開催されるイベントとのコラボという形でおこなったんですけど、熊野市民大学を開催した際、講師が出した本、あるいは講義の内容に関連する本を展示いたしました。また、民間の団体がイベントを開催した際に、女性に対する暴力をなくすことに関連する本の展示もおこないました。イベント終了後、コーナーに立ち寄ったり、図書を借りたりする人もいました。

今後対象イベントを増やして引き続き実施していきたいと考えております。

次に、学校の教科書に紹介された図書の展示に関しましては、小学生コーナーと中学生コーナーを設置いたしました。児童生徒だけでなく教員も借りていると聞いております。

今後の取り組みといたしましては、広報等で周知に努めるということで、広報３月号に掲載いたします。また、図書館だよりにも掲載したいと考えております。

24 ページをお願いします。

図書館閉館後、いつもとは違う雰囲気の図書館を楽しんでいただくキャンドルライブラリーは、子どもの部と大人の部を分けて実施したいと思っておりますが、現在未実施であるため、今後、開催可能な時期等について調整していきたいと考えております。

25 ページをお願いいたします。

図書館に行く手段がないなどの理由で利用者が少ない地域の住民に「図書に触れる機会を増やす」という目的で、団体貸出し、そして出張図書館及びリサイクルブックの提供をおこないました。

下の枠内の実績等について説明になりますが、①の学校への団体貸出しにつきましては、12 月に入鹿中学校、新鹿中学校、飛鳥中学校にそれぞれ 30 冊から 40 冊を貸し出しました。

団体貸出しをした学校では本を読む機会が増えたなど喜びの声もありました。

団体貸し出しの選書については、司書が行っており、心や言葉の発達に役立つ本や青少年の時期に読んでほしい本を選んでいますので、児童生徒の皆さんには積極的に読んでもらいたいと考えております。

図書館では、児童生徒が読むような本は大体揃っていますので、この本が読みたいという希望があれば、団体貸出しの際に持っていきたいと考えております。また、無い場合でも、図書館で購入し貸し出すことも可能でございます。

②の市民への団体貸出し、リサイクルブックの提供に関しまして

は、6月に育生出張所で実施いたしました。結果としましては、貸出として用意した 40 冊中 5 冊が借りられ、リサイクルブックは 63 冊中 17 冊が持ち帰られました。

③のリサイクルブックですが、寄贈された本など有効に活用するため、図書館の玄関にリサイクルブックコーナーを設け、利用者に自由に持って帰ってもらえるようにしておりますが、山間部や海岸部の人たちは図書館の利用者が少なく、なかなかリサイクルブックに触れ合う機会がありません。

図書館を利用していない理由としては、交通手段がない、気軽に市街地に行けないなどが考えられますが、図書館としては、地域に偏りなく、多くの市民に本を読んでいただきたいという考えから、待っているのではなくて、こちらから出向くという発想で、育生出張所に1か月間、リサイクルブックを置きました。また、併せて本の貸し出しも行いました。

利用者の声ですが、健康や体づくり、ヨガなどの本。無農薬のコメ作りの本。手芸の本が読みたいとの要望等がありました。

出張所の職員からは、高齢者が多い、農業をしている人が多いなど地域に応じた本を選んでほしいとの意見がありました。また、育生出張所は、人の集まる場として相談事をはじめ、いろんな話ができるところなので、図書館から持ってきていただいた本やリサイクルブックがあることで、より人が集まりやすい場となったと職員も喜んでおります。

今後、利用者の声や出張所の職員の声を参考にして他の地域でも実施し、図書館の利用が少ない地域の人たちがもっと本に触れ合う機会を増やしたいと考えております。

26 ページをご覧ください。

「ボランティアの充実を図る」ということを目標として「ボランティア養成講座」を開催いたしました。

1月 29 日には読み聞かせの基礎（第1部）、読み聞かせの実践（第２部）を開催し、1部では 19 人、２部では 16 人の方が受講し、読み方、本の持ち方など学びました。また、一人でも多くの方にボランティアに興味を持っていただこうと文化交流センターのクマノミチにおいても普段おこなっている「読み聞かせ」「本の修理」「書架整理」の活動を写真等で分かりやすく説明いたしました。

ボランティア講座には、参加者からアンケートを取りましたが、また参加したいという声や、分かりやすかった等の意見がありました。

今後の取り組みとしましては、読み聞かせは読み手のスキルアップが必要でありますし、同時に、新人のボランティアには、研修が必

要と考えております。

今後、講師を伴うボランティア講座にこだわらず、ボランティアのスキルアップにつながる研修等を工夫しながら継続的に行っていきたいと考えております。

前回の総合教育会議で提案しました４つの取組に関する実施内容、今後の取組等については以上でございます。

つづきまして、今年度開催された生涯学習についてのご説明をさせていただきます。

27 ページをご覧ください。

社会教育課では、人生 100 年の間、絶え間ない教育が受けられるよう乳児から高齢者まで、各ステージでさまざまな教室を設け、生涯学習の充実を図っているところでございます。

それでは、個別の説明に移らせていただきます。

ここに載せてある実績なんですが、各講座の実施回数や参加人数は令和４年 12 月末現在のものでございます。

まず、乳幼児から未就学児までですが、おはなしなぁに、幼児のおはなし会、おはなしわくわくの読み聞かせの３事業があります。

参加人数が少なくなってきたため、「幼児のおはなし会」「おはなしわくわく」を第２土曜日の午後２時から午前 10 時 30 分に変更いたしました。ただし、コロナ渦ということもありましたので、参加者数はさほど伸びておりません。

今後の取組としましては、おはなし会で読んだ絵本の内容に関連するものを工作するといったことを実施したいと考えております。例えば、お化けの絵本だったら、紙コップでおばけを作る。あるいは、どんぐりが出てくる絵本だったら、どんぐりを使った工作をするといったもので、絵本を聴くだけでなく工作することで子どもと保護者が楽しい時間を過ごしていただきたいと考えております。

28 ページをご覧ください。

小学生から中学生を対象のステージですが、いっしょに花づくり、チャレンジ科学教室、囲碁教室といった、人気のある講座に加えて今年度、新たに、小学生を対象とした巡ろう熊野市の文化財を実施いたしました。

IOT の学びの推進事業の「ドローン体験教室」は入鹿中学校でも開催いたしました。

来年度も、学習機会の公平化を図るため、可能なものは、文化交流センターに限らず他の会場で開催するなど、柔軟な開催を心がけたいと考えています。

図書館の事業として、キッズ司書がありますが、令和２年度は５

名、令和３年度は 10 名がキッズ司書となり、令和４年度は 13 名の児童がカリキュラム終了後司書となる予定でございます。

キッズ司書が選んだおすすめの本を幼稚園や小学校に配布する図書館だよりに掲載したり、カウンター業務やおはなし会での読み聞かせなどおこないました。また、図書館福袋での児童書の選書は利用客にも好評を得ることができました。OB の児童も、お手伝いとして参加してくれるなど、今後、キッズ司書の活躍を期待しております。

キッズ司書講座を受講する子どもたちは、本が好きな子どもで、その気持ちや意欲をどんどん伸ばしてやりたいと思っています。キッズ司書は小学生が対象ですが、中学生となった卒業生にもいろんな場面で手伝ってもらっております。

今後の主な取組として、好きな本を読んでもらって感想を話す場を作る。中学生になってもキッズ司書として各行事に協力してもらうことで、本との繋がりを絶やさないようにすることです。

29 ページをご覧ください。

高校生から高齢者につきましては、スマホよろず相談室は、講師と１対１による相談形式で実施しました。

フラワーデザイン教室は今年度は、１回目は入門編とし、価格を抑えることで新規の参加者も獲得できました。

出前講座は、今まで参加したくても交通手段が確保できない、興味もなく参加したことがない等の人たちにも参加してもらうために、紀和町入鹿地区で、開催地の区の役員の協力を得ながら地元の歴史等を題材とした講座をおこないました。

また、会場までの交通手段等が確保できない受講者に対して送迎を行うことといたしましたが、利用者はいませんでした。

今後の取り組みとしましては、現状に満足せず、さらに学習意欲を掻き立てる内容を検討していきたいと考えています。また、・生涯学習講座への参加経験が少ない市街地以外の方を対象とした「出前講座」を開催し、市民全体の学習機会を増やしたいと考えております。

30 ページをご覧ください。

図書館行事の製本教室につきましては、新規の参加者を見込むことを目的として、今年度は年賀状教室から製本教室に変更いたしました。講師がボランティアさんなので、ボランティアさんと相談しながら、参加者が満足する教室を検討していきたいと考えております。

最後の高齢者を対象とした講座等につきましては、紀和町の寿学園では、健康長寿を実現することを目的に、みんなで集まって楽しく学ぶといった講座を充実させていただきたいと考えております。

31 ページをご覧ください。

図書館では、様々な取組を行うことで、本に触れる機会を増やし、少しでも多くの本を読んでもらおうと努力しているところですが、児童生徒に対しましては、学校との連携が必要だと考えております。

現在、学校連携としては職場体験、図書館の見学、読書感想文コンクール、集団貸出し、読み聞かせ、図書館だよりの配布、教科書に載っているおすすめ本のコーナーの設置などがあります。

さらに連携を深めるには、キッズ司書の活躍が重要だと考えております。キッズ司書の役割は、自分がより本に親しむだけでなく、読書の楽しさをみんなに伝えるということです。

読むきっかけを作ったり、読みたい本を見つけ出したりするには、子ども同士の力を借りることが有効だと考えます。

現在、キッズ司書は、本人が読書の楽しさを知ることに重点を置いていますけれども、これからのキッズ司書は、友達に本を読むきっかけを与えるとか、司書の仕事、図書館の仕組み、魅力的な本の紹介方法などを学んで学校図書館で活躍することが必要だと思っております。また、中学生になったキッズ司書が引き続き、図書館行事のお手伝いをしてもらったり、学校での活動の場を設けたりすることも重要になってくると考えております。

今後、社会教育課だけではなく学校教育課と連携しながら取り組んでまいりたいと思っております。

以上で社会教育課の説明を終わりますが、学校連携について、あるいは、これまで説明してきました取組について、教育委員の皆さんにご意見を伺いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

雑賀総務課長　ただいまの内容についていかがでしょうか。

高見委員　生涯を通じた学びの充実のところの、おはなしなぁに、幼児のおはなし会、おはなしわくわくのところの今後の取り組みのところなんですけど、工作をするというのが提案されていて、親子で一緒に何かをするっていうのがすごく大切だと思うんです。おうちで居ると、お母さんは他に色々しなければならないことがあったりするので、こういう一緒に何かをするというのは愛着形成にも繋がると思うので、是非とも取り入れていただきたいなと思いました。

柳本社会教育課長　ありがとうございます。今までコロナ禍ということもありまして、読み聞かせのみということだったんですが、今後はウィズコロナということもありますので、親子一緒になって何かを作るということが大切になってくるのかなとということで、今後取り組んでいきたいと考えております。

根引委員　２つあるんですが、１つは図書館は大変活用されているなというふうに思っております。私もたまに来るんですけど、いい場所にあり

ますし。色々な活動をやってもらっているなと思っております。

２つ目は、28 ページなんですけど、一番上、一緒に花づくり教室というのがあるんですけど、今、国道沿いの花壇についてですけど、関連してですが、高齢化してきておりまして、大変な状況になってきております。そういう中で、子どもと一緒に高齢者の方が、花づくりをするというのは、いいことだなと思っております。是非ともそういう場に、子どもだけでなく、参加しにくいと思いますので、できれば親子で参加していただけたらいいなと思います。少し余談になるんですけど、国道の花壇をやっております高齢者の方から私が言われた言葉は、市長さんからお礼の手紙をいただいたので、草を生やしておくわけにはいかんと、それくらい励みになっておりますので、子どもが来ることで、励まされることもいっぱいありますので、そういうふうにできたらお願いしたいなと思います。

柳本社会教育課長　花壇の方は今、本当に大変だと思います。今後、公益社を育てていくというのも検討課題かと思います。社会教育課としましては、生涯学習としてやればいいのかと検討したんですけど、市長公室とも話をしながら連携して検討していきたいなと思っております。

根引委員　平成 30 年くらいの熊野市総合計画が出た時に、その中にも子どもと一緒に国道の花づくりをするというのが書かれていたと思います。それを利用していただけたらなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

倉本教育長　子ども達も高齢の方と一緒に何か活動が出来るような仕掛けを考えていかなければならないと思います。そして、課長の方からも話がありましたが、社会教育課の方で生涯学習講座、幼児、児童、そして高齢者の方まで色んな講座をやっております。その中で参加者が固定化しつつあるという傾向があります。ある講座では、毎年同じ講座にエントリーしている人もおり、昨年度から２年続けて参加した人には、初めての方を優先させてもらうとか、そういったことにしております。できるだけ多くの方に経験していただいて、きっかけづくり、そういった機会にしたいと思っております。

もう１つは、山間部であったり、海岸部であるとか、なかなか参加しづらいという人たちがおられます。そういった方々に対して、講座に参加する機会をこちらが提供したいという思いを持って、育生町でおこなった出張図書館の形式であったり、リサイクルブックの提供であったり、または入鹿でおこなった地元の歴史に関する出前講座であったり、そういったことをこれから注力していきたいと思っております。

雑賀総務課長　市長いかがでしょうか。

河上市長　　特定の人が何度も来ているというのは以前から課題になっていて、しかも29ページの平均の人数を見ると、今の固定化されていることに加えて市民大学以外は非常に人数が少ないと、いわゆる少数固定という状況にあるという認識があるので、やはり今、教育長が言ってくれたような参加しづらい山間部や海岸部の皆さんの参加の機会を提供させていただくというのは、やっていただきたいことですし、そもそも論として、参加できるのに参加していない市民があまりにも多いという問題意識を強く持ってもらわないといけないんじゃないかという気がします。

何がいいとか、何が悪いとかはわからないけれど、絶対的に少ないでしょ。子ども達を除く市民の人口を考えたら。非常に数字が小さいという気がしますんで、是非努力をしていただきたい。ものすごい細かいことで申し訳ないんだけど、今、色々な行政の仕掛けをして、例えば納税の面で滞納の額を減らすとか、健康診断の受診率を高めるとか、ナッジ理論とか使われていますけど、やはり、最初は押してもらう、後ろから押して、こういった生涯学習に来てもらうような、そういうちょっとした仕掛けが無いと、色んなものを用意しても、ああまたやってるわで終わってしまうんじゃないかと。そういう働きかけの仕組みをもう少し深く考えるのがいいんじゃないかという気がします。職員の皆さんは勉強してもらってるんで、人間て得することより損することが嫌いとかね。平均的な場所に居ないと不安だとかね。そういうのを利用した働きかけも考えるべきだし、子ども達の本を読ませる仕掛けでもそういうのが必要なんじゃないかと、ナッジというのは十分活用すべきじゃないかと思います。是非ちょっと勉強してください。

柳本社会教育課長　　今、市長が言われたナッジ理論について勉強して、活用してどんどん来てもらえるようにしたいと思います。

雑賀総務課長　　他、いかがでしょう。教育長よろしいでしょうか。

倉本教育長　　図書館は企画を色々とやっております。学校に対しても企画しております。ただ、集団貸し出しなんかは、小学校はある程度借りていただくんですが、中学校はやはり部活動など色んな事があって貸出率が低い。今年度は、こちらから持って行くと、そういったことをやりました。これからも、向こうから来てもらえないのであれば、こちらから行かせていただく、提供させていただく、そういったことを進めていきたいと考えております。

雑賀総務課長　　他、いかがでしょう、学校教育課長。

伴学校教育課長　　学校教育課と連携してという言葉もございました。特にキッズ司書に関しましては、学校では委員会活動といいまして、学校図書館の

お世話をする子ども達というのがおります。既にそういう中で、キッズ司書の子ども達が活躍をしているということも聞いておりますし、そういったところからの学校への広まりということも考えていきたいと思います。それから、中学生の中では、ビブリオバトルといいまして書評合戦を積極的に取り入れて、授業の中で各学校取り組んでいる様子も聞いております。これまでに無い形の本への親しみを持つ取り組みでもあります。そういったことも市立図書館と連携しながらできればなと考えております。

河上市長　今のお話に関連して言うと、ビブリオバトルにしてもキッズ司書にしても、おそらく元々本が好きな子どもの参加は見込めると思うんですけど、我々が課題として考えないといけないのは、あまり本を読まない子にどうやって読ませるかという、そっちの事も是非考えていただいて。教育長おしゃったまず提供して、本を読む機会がいつでもあるような状況にするのは一番で、次はなるべくそれを普段あまり本を読まない子が読むようにどうやって仕掛けるか、その手段の１つがナッジ、ナッジだけでは無いと思うんですよ、色々な仕掛けがあると思うんで、そこは更に工夫をしていただけたらありがたいなと思います。

倉本教育長　先程お話しなかったんですが、市民の方から色んな本の提供をいただきます。それで図書館で保管して、市民の方に見ていただく本と、リサイクルブックで利用する本、そしてもう１つは学校に提供する本を分けています。その中で図書標準といって、この規模の学校にはこの程度の本が置かなければいけないという数字があるわけなんですけど、これが低い学校に配布をしたりするようなことは進めていきたいと思います。

河上市長　さっき、育生町の住民の声でもっと農業関連の本を読みたいとか、健康づくりの本を読みたいとか要望があったと。そういう要望と、図書館における図書の選定はリンクしているんですか。

柳本社会教育課長　今回、持って行った図書はそこまでのリンクはしていないと思います。

河上市長　そもそも自分が欲しい本ばかりを買えというお客さんが出てくるから、一般的なシニアアンケートで図書を購入するというのは、必ずしも望ましい面ばかりじゃないと思うんだけど、どっかでそういう声を聞くというのも一方では大切なんで、聞き方は工夫していただかないと、話題になっている本とか自分が読みたい本ばかりを買えというのが絶対出てくる。それが必ずしも図書館として好ましいのかは分からないので、ただ一方で健康づくりの本なんかは関心が高いわけですから、その選定の仕方を、声を大事にしながら、しかも声

に全て委ねるんじゃなくて、図書の選定の在り方というのはもう少し検討していただいてもいいんじゃないかなという気がしますけども。

倉本教育長　育生町でおこなった催しの中では、司書に協力いただきました。色んな声を聞き取っていただく中で、やはり自分はもう少し大きな文字の本がいいとか、もう少し配慮しなければいけないなということに気づきましたので、少しずつ改善していきたいと思います。

雑賀総務課長　ありがとうございます。そろそろお時間も過ぎてきたようですが、他ございませんか。

よろしいでしょうか。最後に事項書では（３）その他と設けておりますが、事務局で用意した事項はございません。委員の皆様から何かございますでしょうか。

ありがとうございます。本日色々なご意見頂戴いたしました。これまでの成果や反省を踏まえまして、これからの事業遂行に活かしていきたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

それではこれをもちまして、令和４年度第２回熊野市総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。